

人吉市での災害復旧支援業務に従事して

派遣先 熊本県人吉市 建設部 都市計画課（街路公園係）
所属 危機管理室 危機管理課
氏名 石津 智二
活動期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

1 はじめに

令和2年7月豪雨により一級河川球磨川や支流の氾濫による広範囲な浸水など、甚大な被害を受けた熊本県南部、人吉・球磨地域の復旧・復興に向け、令和3年度の1年間、人吉市への土木派遣職員として都市公園の災害復旧業務等に従事してきました。

赴任した4月は発災から9か月足らずであり、球磨川やその支流に接する市街地の至る所で、浸水後手付かずのまま放置された家屋や建物、激しい濁流や流木により倒壊した護岸や橋梁を目のあたりにし、その被害の大きさに驚きを隠せませんでした。

<赴任時（R3.4）の人吉市街の状況>



閑散とした中心市街地



倒壊・流出した護岸・橋梁

2 現地での業務

人吉市役所の庁舎は平成28年の熊本地震で被災し、今年4月の新庁舎移転に向け建て替え工事が進められています。このため派遣期間中、市総合体育館の一部である剣道場を改修したスペース（建設部・経済部の仮庁舎）で執務を行うこととなりました。



配属された職場

市内の街路及び公園の新設・維持管理を行うラインに配属されましたが、赴任時点で公園関係の災害査定は終えており、災害復旧に関する工事発注も進められていたため、係内での協議により、私は「都市公園等の災害復旧や長寿命化に関係した工事設計・監理業務」を担当することとなりました。

具体的には、7月豪雨で被災した街区公園や観光広場の災害復旧（相良公園・宝来町公園・中神公園、人吉城跡・渋谷家屋敷跡）、比較的規模の大きい都市公園内の被災施設復旧（石野公園内の護岸・法面復旧）や長寿命化に関連した公園施設のり

ニューアル（西間公園の全面改修）・村山公園（都市公園内の園路改修）を担当しました。

特に史跡人吉城跡における崩落法面の復旧は、日本の隠れ家と評されたこの地域を正に象徴する貴重な文化財であり、観光のまち人吉のシンボルとも言える歴史ある城郭の一部を復旧する工事ということで、大きな思い出となる貴重な経験をさせて頂きました。

実務に際しては、北九州市では主に道路の新設・改築に携わってきたため、公園についてはほぼ無知だったこと、こちらの事務処理のルールや導入している積算・図面作成OSへの順応に少し苦勞したこと、業者対応で感じたアウエー感など、胃の痛い時期もありましたが、ラインのプロパー職員や担当係長がやさしく指導してくれたおかげで、何とか卒なく業務が遂行できたと感じています。

<街区公園の復旧・リニューアル>



相良公園

球磨川に面した公園の復旧



西間公園

胸川（球磨川支流）に面した公園のリニューアル

<史跡人吉城跡の災害復旧>



大規模な土砂崩れが発生した城郭法面の復旧

3 人吉市のさまざまな取り組み

早期の復旧・復興を進める上で、人吉市は行政のみによる一方的な復興計画立案を行わず、地域住民とのワークショップ（地区別懇談会）を重ね、昨年10月に新たなまちづくりの方向性を示す「復興まちづくり計画」を策定されています。

<復旧・復興に向けた都市計画の策定等>

- ・復興基本方針（R2.9）、復興計画（R3.3）、復興まちづくり計画（R3.10）の策定
- ・被災市街地復興推進地域の指定（R3.7）※区域内の建築制限

- ・同地域における区画整理事業の実施に向けた具体的な取り組み開始（R 4. 1）
 - ※ 熊本県（球磨地域振興局）と分担した地権者への個別説明や区画整理事業の都市計画決定に向けた行政手続きを開始
- ・災害公営住宅の建設や木造仮設住宅の利活用に向けた計画検討、入居仮申し込み開始（R 4. 1）

また、この水害経験を踏まえ、復興の将来像“ 球磨川と共に創る 安心して住み続けられるまち” とのコンセプトの元、防災に対する新たな取り組みがなされています。

<防災安全に向けた取り組み>

- ・市民一斉避難訓練（R 3. 6）※ 地区ごとに避難場所・ルートを市民参加で確認
 - ・人吉市総合防災訓練（R 3. 10）※ 関係機関が一斉に各所で大規模な防災訓練を実施
 - ・防災ラジオの全世帯配布（R 3. 11（被災世帯には6月に先行配布））
- その他、地域の中学生が各学校を代表して、市議会にて行政やまちづくりについて質問を行う「中学生子ども議会の開催（R 3. 10）」など、市政を身近に感じさせる興味深い取り組みがなされていました。

4 復旧・復興に向けたきざし

多くの方々がいまだ生活再建の見通しが立たない中、被災後1年半以上が経っても市内各所に設けられた仮設団地やみなし仮設（賃貸物件への仮入居）での暮らしを余儀なくされ、引き続き市内の至るところでは被災した家屋やビルの解体が進められています。私がこの街で暮らした1年で人吉・球磨の復旧・復興に向けた大きな歩みを見て感じることができました。

<進められる被災家屋等の解体・まちの風景>



球磨川に隣接した中心市街や住宅地の状況



市内各所に設けられた仮設団地

<復旧・復興のきざし>

- ・くま川下り発船場（H A S S E N B A）のリニューアルオープン（R 3． 8）
 ※ 秋からは区間を限定したくま川下りやラフティングも再開
- ・大型観光旅館・老舗旅館の再開（R 3 秋）
- ・国宝青井阿蘇神社の復旧概成（R 3 秋）
- ・くま川鉄道の一部運行再開（流出した球磨川横断橋梁より上流側）（R 3． 1 1）
- ・地元大型スーパーの新装開店（R 3． 1 2）



“ H A S S E N B A ” オープン



地元大型スーパーの新装開店



大きな浸水被害を受けた観光旅館の再開

5 活動を通して印象に残ったこと（人吉に暮らして感じたこと）

私が入吉市に赴任して強く感じたのは、プロパー職員の誠実さや市長と職員の近さです。市長を含め多くの職員の方々も被災者であり、生活再建に不安を抱えながら公務に従事されている状況にありながら、本当に親切に丁寧な市民対応をされていました。

インフォメーションには毎月のように市長から職員に向けたメッセージが送られて来るのですが、市政や復興に向けた現状や課題、展望・方針等を飾らない言葉で綴られ、市職員全体の認識共有や復興に向けた共感に繋がっていると感じました。

私的な話ですが、昨年7月に実家が少し大きな土砂災害に遭ってしまい、その対応に苦慮する中、担当する工事業者の方からは、自分の状況を話してくれた上で、気遣いとねぎらいの言葉をかけて頂きました。この地域の方々の穏やかな優しい人柄を表していると思います。

年末には地元選出の金子総務大臣（あさぎり町出身・人吉高校卒）による復興状況視察の一部として、被災地派遣職員への激励を頂く場に参加させて頂きました。人吉での仕事を振り返る上でいい思い出の一つとなりました。

人吉・球磨はブナの原生林が残る高い山々や美しい河川に囲まれ、あゆ釣りやラフティング・舟下りなどの球磨川を象徴する川遊び、市内の至るところから湧き出す温泉、相良家700年の統治の歴史を感じさせる社寺仏閣やこの地域の風土に育まれた米焼酎の酒蔵も至る所に点在し、地理的にも宮崎・鹿児島に接しているなど、非常に観光ポテンシャルの高いところです。

この地域が少しでも早く、望むべき復興を果たされ、以前のような観光や農業を主体とした賑わいを取り戻すことを願って、この地での仕事や暮らしを終えたいと思います。

<人吉の思い出>



人吉城跡や三の丸広場から臨む人吉の街並み



球磨川や脊梁山地に抱かれた豊かな自然



国宝“青井阿蘇神社”と相良三十三観音



市内各所にある球磨焼酎の酒蔵と身近な公衆温泉



金子総務大臣からの激励後の1コマ